

River Basin Disaster Resilience and Sustainability by All

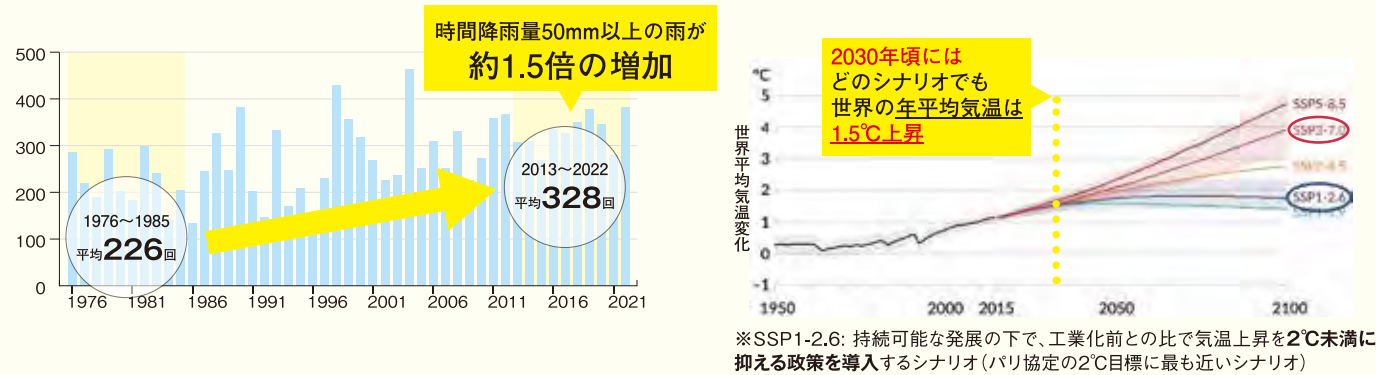
EDOGAWA 流域治水 みんなで取り組もう！



いまどんなことが起きているの？

「気候変動」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。
私たちの身の回りで何が起きているのか、これからどうなっていくのか、見ていきましょう。

いま何が起きているの？



- 短時間降雨の発生回数の増加や台風の大型化、土砂災害発生頻度の増加など、既に地球温暖化の影響が顕在化しています。
- また、国連IPCC第6次評価報告書(2021年8月)によると、向こう数十年の間に二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に地球温暖化は1.5℃及び2.0℃を超える、などとされています。

これからどうなっていくの？

- 国土交通省では、年平均気温が2℃程度上昇した場合、**降雨量は現在の約1.1倍**、洪水発生頻度は約2倍になるという分析結果を公表しています。
- 年平均気温の上昇に伴って今後も大雨や台風などによる洪水や土砂災害については被害が今まで以上に大きく、また発生頻度も多くなっていくものと考えられます。
- また、これまでの河川や下水道整備など管理者主体による対策だけでは治水計画としても、対応に要する時間としても限界がきています。



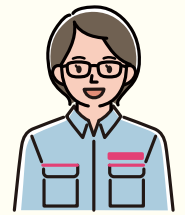
私たちの流域でも 浸水被害が頻発しています

これまで行政による河川の整備や放水路、排水機場、調節池の整備などにより、河川の氾濫による浸水被害は減ってきている一方で、近年も江戸川、中川・綾瀬川流域では内水被害が発生しています。
今後も気候変動の影響による水災害が激甚化・頻発化することを踏まえた、更なる対策が必要です。

2023(令和5)年台風第2号による浸水被害状況



気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化を背景とし、
治水の考え方が従来の考え方から大きく変わりました。
これからの治水の考え方について、ぜひ知って下さい。



流域治水とは River Basin Disaster Resilience and Sustainability by All

レベルアップした雨に負けないよう、将来にわたって水害に対して安全なまちづくりを進めていくため、
流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で取り組む治水対策を「流域治水」
と言います。

<ポイント!>

- 河川整備計画等について気候変動の影響を考慮した目標に見直し、整備を加速化させるなど、これまで河川管理者が行ってきた治水対策は引き続きしっかり実施します。
- そのうえで、甚大な被害を回避し、早期復旧・復興まで見据えて、事前に備え「強靱性: **Resilience**」、将来にわたり継続的に社会や経済を発展させる「持続可能性: **Sustainability**」ことを、流域(**River Basin**)のあらゆる関係者で取り組む「包摂性: **by All**」ことを「流域治水」の基本的な考え方としています。

これまでの対策

- すでに江戸川、中川・綾瀬川でもさまざまな「流域治水」の対策が進められています。



江戸川、中川・綾瀬川流域の特徴は？

みなさんが住んでいる江戸川、中川・綾瀬川流域はどのようなところか、流域の成り立ちや特性について紹介します。

非常に緩やかで高低差のない河川です。流域には人口・資産が集中しています。

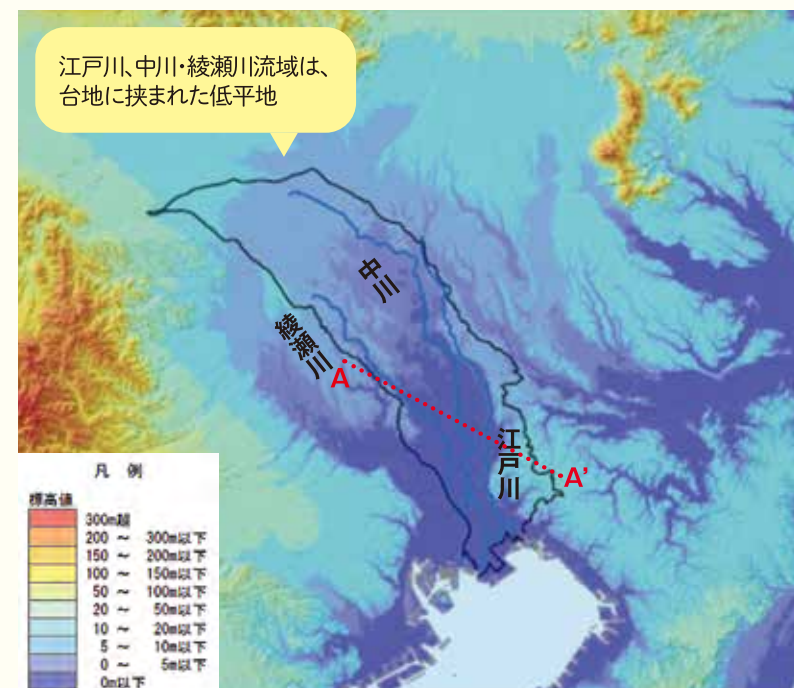
江戸川

江戸川は茨城県五霞町・千葉県野田市で利根川から分かれ、茨城県・千葉県・埼玉県・東京都の境を南下して東京湾に注いでいる一級河川です。高低差があまりないため、流れは非常に緩やかです。流域には多くの人口・資産が集中しています。

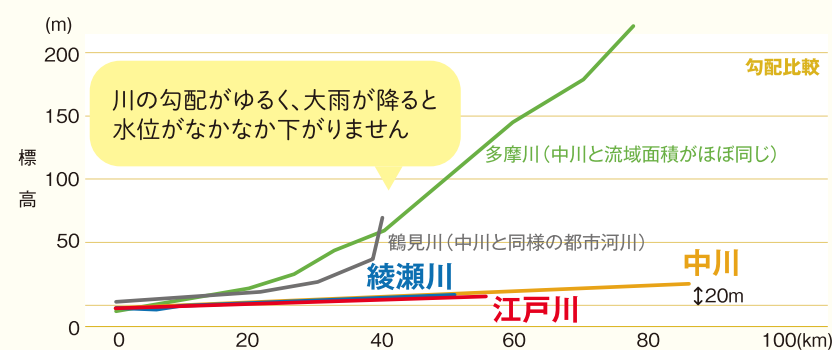
中川
綾瀬川

中川は、埼玉県羽生市を上流端として、大落古利根川などの多くの支川を集めて南下し、綾瀬川と合流して東京湾へ注ぐ一級河川です。中川・綾瀬川は、江戸川同様、流れは非常に緩やかです。流域は昭和40年代から都市化が急激に進行し、人口・資産が集中しています。

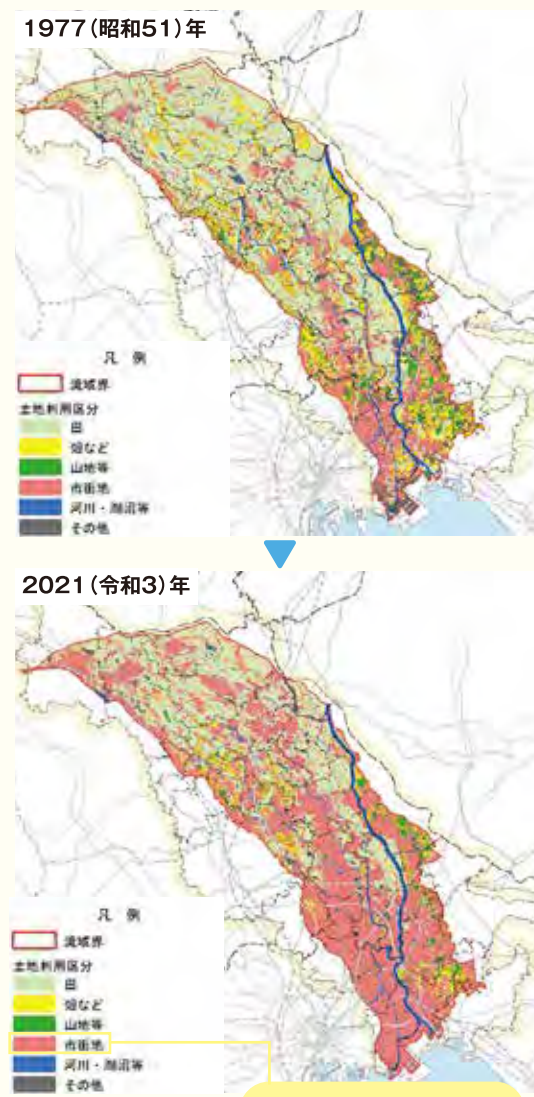
江戸川、中川・綾瀬川流域周辺の地盤高



江戸川、中川・綾瀬川の河川勾配

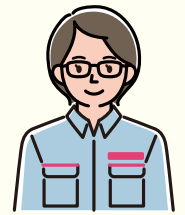


江戸川、中川・綾瀬川流域の市街化



高度経済成長期以降、流域内の都市化が進行

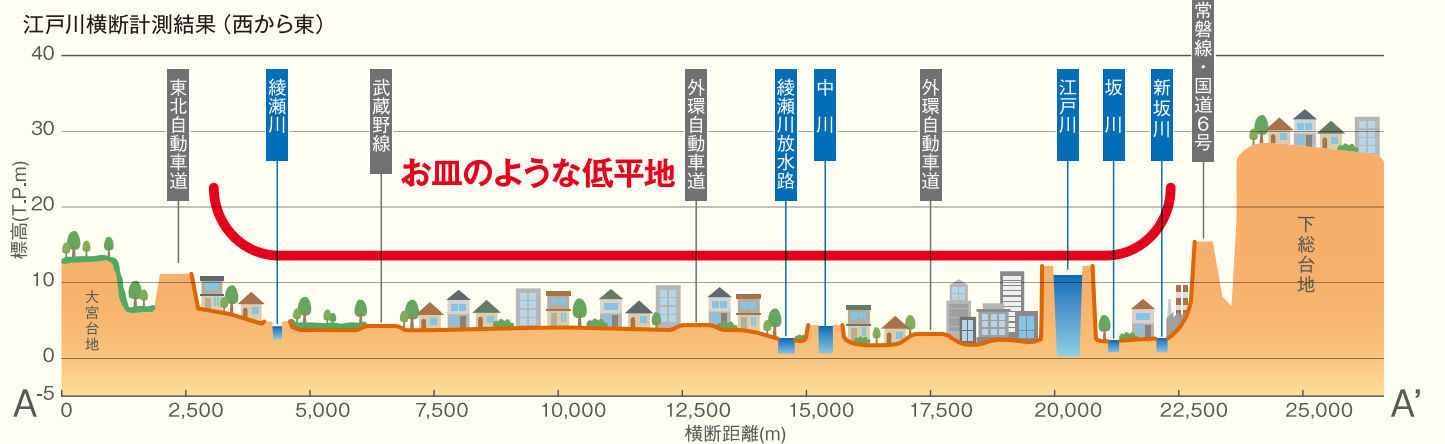
低平地のため浸水しやすい地域となっています。
さらに、高度成長期以降、都市化が進行したことで、人口・資産が集中しており、水害により大きな被害を受けるおそれがあります。



お皿のような地形で水がたまりやすい

江戸川、中川・綾瀬川の流域は、台地と台地に挟まれたお皿のような低平地であるため、昔から洪水による氾濫を繰り返していた地域です。加えて、市街化が急激に進んだことや河川自体の流れが穏やかなことから、**雨が溜まりやすく浸水しやすい地域**となっています。

江戸川、中川・綾瀬川の地形



利根川の東遷/荒川の西遷

- 江戸時代より前、江戸川は「^{ふとひがわ}太日川」と言う渡良瀬川の一部でした。
また中川は今も残る古利根川や元荒川などの支川名からも分かるように、江戸時代初期に行われた利根川の東遷や荒川の西遷以前は、大河川の利根川や荒川の本流でしたが、江戸時代以降に実施された治水事業により現在の流れに改修されました。
- この改修により、江戸川、中川・綾瀬川の流域は大きな洪水から守られるようになりましたが、地形的にも元々大小様々な河川が流れる氾濫原だったことがうかがえます。

利根川を東に
荒川を西に移動
させた大事業

※利根川や荒川の旧流路は、現在も古利根川や元荒川という名称で当時の名残をとどめています。



流域ではどんな対策が行われてきたの？

江戸川、中川・綾瀬川の流域は、常時人の目で河川の状態を監視し、水門や排水機場の操作を行うことで流域の浸水被害を軽減しています。

常時監視と強力な排水機能により流域の浸水被害を軽減しています

江戸川、中川・綾瀬川の流域では、地形特性や急激な都市化に伴い、降った雨水が貯まりやすく、また河川の水位が下がりづらいため、常時人の目による監視を行い、こまめに排水機場の運転を行い、より余力のある荒川や江戸川に強制的に排水（域外排水）することで、流域の浸水被害を軽減しています。

首都圏を浸水被害から守る！

①首都圏外郭放水路庄和排水機場 (最大排水量200m³/秒)



倉松川・中川・18号水路
大落古利根川・幸松川→江戸川
※特に幸手市、杉戸町、春日部市などの水を排水

平成18年度完成。中川流域の深刻な浸水被害を軽減するために国道16号の下に建設された首都圏外郭放水路の出口として、放水路の水を江戸川へ排水します。



市街地化進む江戸川支流・坂川流域を浸水から守る！

②坂川放水路 松戸排水機場 (最大排水量100m³/秒)



坂川・坂川放水路→江戸川
※松戸市、流山市の一部の水を排水

平成7年度完成。宅地開発が進んだ坂川流域の浸水被害の軽減が目的。江戸川と利根川を結ぶ北千葉導水事業の一環としてつくられた坂川放水路の下流にあり、坂川の内水を江戸川に排水します。

綾瀬川の浸水被害を防ぎ、水質浄化も

③綾瀬川放水路 八潮排水機場 (最大排水量100m³/秒)



綾瀬川・古綾瀬川→中川
※特に草加市、越谷市、八潮市などの水を排水

平成10年度完成。綾瀬川流域の浸水被害を軽減するため、その一部を中川に排水します。また水質浄化のために中川の水を綾瀬川へ送水します。

中川流域を内水・浸水・湛水・高潮から守り、水質浄化も

④三郷放水路・三郷排水機場 (最大排水量200m³/秒)



中川・大場川・第二大場川→江戸川
※特に三郷市、吉川市などの水を排水

平成7年度完成。中川上流の湛水被害、下流の洪水に対する安全度の向上、高潮時の水位上昇の緩和、中川下流部の水質浄化、江戸川の利水安定などを目的としています。

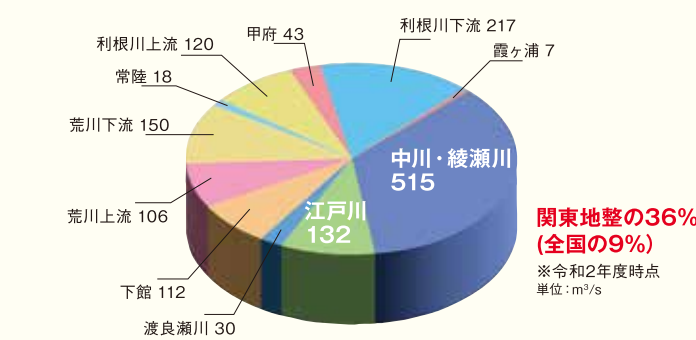
全国の約1割、関東地方整備局の約4割に相当する排水能力が結集

中川・綾瀬川の大規模な排水ポンプ施設は、関東地方整備局全体の総排水量のうち36%（全国の9%）を占めています。

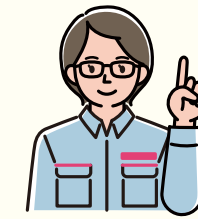
■江戸川河川事務所 排水ポンプ容量

排水機場名	総排水能力(m³/秒)	ポンプ容量(m³/秒)
1 庄和排水機場	200	50x4
2 松戸排水機場	100	50+25x2
3 八潮排水機場	100	50+25x2
4 伝右川排水機場	15	7.5x2
5 三郷排水機場	200	50x2+30+20
6 古ヶ崎排水機場	15	7.5x2
7 根本排水機場	15	7.5x2
合計	645m³/秒	(Max50m³/秒)

■関東地方整備局排水ポンプ 地域別排水容量



江戸川河川事務所が管理している排水機場の総排水量は全国トップクラスで、これまで多くの浸水被害を防ぎ、みなさんの生活を水害から守っています。

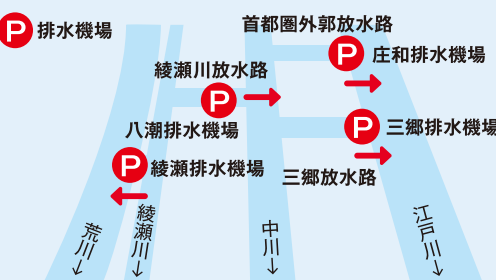


放水路による浸水被害軽減のためのネットワークが活躍します

江戸川、中川・綾瀬川および荒川は、放水路によるネットワークが構築されており、洪水の防止や水質の向上、水不足の際に補いあうなど、状況に応じて互いに連携して機能しています。

綾瀬川に氾濫の恐れがある場合には、綾瀬川放水路を通じて中川へと綾瀬排水機場を通じて荒川へ水が放流されます。中川へ放流した水は、三郷放水路を通じて江戸川へ放流されます。また、中川等が氾濫しそうなどときには、地下の「首都圏外郭放水路」を通じて江戸川へ水を放流することで流域を水害から守っています。

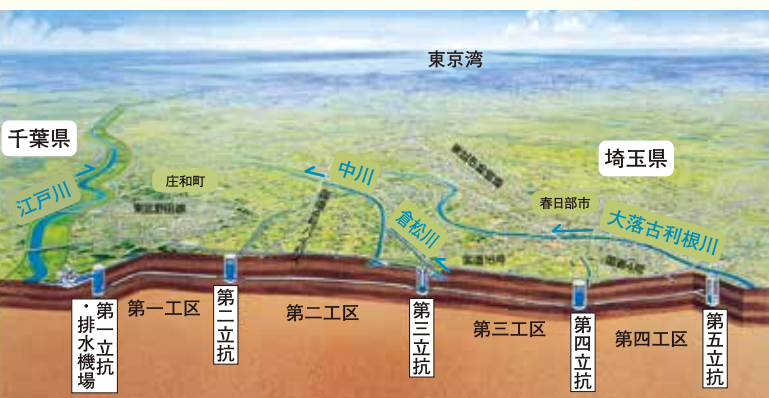
■主な河川、放水路、排水機場の位置



首都圏の守りの要！地下神殿としても親しまれている「首都圏外郭放水路」

首都圏外郭放水路は倉松川、大落古利根川など中小河川の洪水を地下に取り込み、地底50mを貫く総延長6.3kmのトンネルを通じて江戸川に流す、世界最大級の地下放水路です。流域の約4割弱の面積をカバーする施設となっており、完成によって、周辺地域の浸水被害が大幅に減りました。

■首都圏外郭放水路全体概要図



■首都圏外郭放水路（調圧水槽）



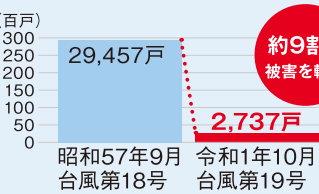
令和元年東日本台風における中川・綾瀬川流域での治水効果

昭和57年9月よりも令和元年東日本台風の方が多い雨量を観測しましたが、河川整備や排水機場の整備により、浸水戸数は昭和57年9月豪雨時の被害と比較して約9割を軽減することが出来ました。

■中川・綾瀬川流域の最大48時間降水量（流域平均）



■中川・綾瀬川流域の浸水戸数



流域治水の具体的な対策は？

気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、流域の成り立ちや特性にあわせ、流域全体で、行政も企業も住民のみなさんもそれぞれが主体的に治水に取り組むことを目指します。

3つの対策の柱

流域治水の基本的な考え方に基づく対応策は、下記の3つに分類されます。

1 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

集水域

ためる、しみこませる

- 雨水貯留浸透施設の整備
- ため池等の治水利用 等

河川区域

ためる

- 治水ダムの建設・再生
- 遊水地等の整備

氾濫を減らす

- 河道掘削
- 堤防整備
- 高規格堤防の整備

2 被害対象を減少させるための対策

よりリスクの低いエリアへ誘導

氾濫域

- 土地利用規制、誘導、移転促進
- 不動産取引時の水害リスク情報提供
- 金融による誘導の検討

被害範囲を減らす

- まちづくりと連携した高台まちづくりの推進

3 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

氾濫域

土地のリスク情報の充実

- 水災害リスク情報の空白地帯解消
- 多段階水害リスク情報を発信
- 避難体制を強化する
- リアルタイム浸水・決壊把握等
- 経済被害の最小化
- 工場や建築物の浸水対策、BCP策定等
- 住まい方の工夫
- 不動産取引時の水災害リスク情報提供等
- 支援体制を充実する
- 官民連携のTEC-FORCEの体制強化
- 氾濫水を早く排水する
- 排水門等の整備、排水強化

●河川、水路の整備・浚渫

洪水を安全に流下させるために、河川や水路で洪水の流れる断面を大きくし、洪水に対して安全な構造とするための堤防を整備

●浸水被害防止区域や災害危険区域の指定

浸水リスクの高い区域を指定し、一定の開発行為や建築物の建築、または新たな居住に対する立地を規制することで、居住者の命を守る

●水害リスク情報の充実・活用

水防法改正に基づき浸水想定区域図の指定を拡大、浸水対策に必要な水害リスク情報や、避難判断に必要な防災情報等を発信・活用

●田んぼダムや流出抑制施設等の整備による負荷量の低減

水田からの流出量を抑えるなど、流出抑制施設の整備、活用を行うことで、周辺の農地・集落や下流域の浸水被害リスクの低減を図る

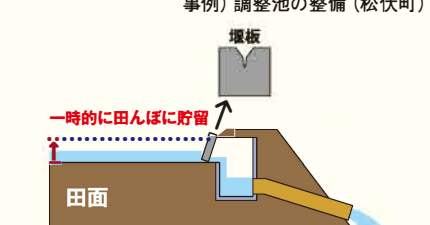
調整池の例



平常時

洪水時

事例）調整池の整備（松伏町）



堰板

一時的に田んぼに貯留

田面

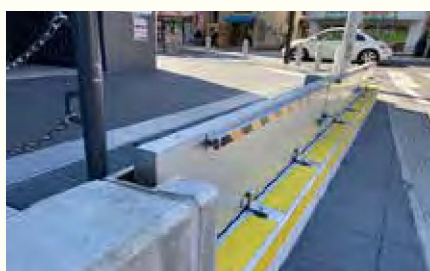
田んぼダムの例

●「高台まちづくり」の推進

線的・面的につながった高台・建物群を創出し、命の安全・最低限の避難生活水準を確保できることで水害に強いまちを整備

●浸水対策

耐水化、止水壁、住民等の防災改修など



事例）浸水防止壁（市川市）

●防災教育の充実

学校の教育課程に防災への備えを取り組み、地域の水災害から得た教訓を子供たちに伝え、自分たちでも取り組むことができる行動を考える

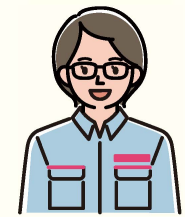
●マイ・タイムラインの普及・防災アプリ等との連携

自宅の水害リスクを知り、家庭においてどのような防災行動が必要か、どのタイミングで非難すべきかを自ら考え時系列で整理

●BCP策定や浸水対策の実施

浸水被害が想定される施設における事業継続計画（BCP）の策定と訓練の実施、また止水板や排水ポンプ等の浸水対策の実施

流域治水の対策は3つに分類されます。
関係者で情報共有や意見交換を行いながら流域治水を推進しています。



流域治水の推進に向けて様々な取り組みが行われています

河川・下水道管理者等による治水対策に加え、流域のあらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）が流域で行う対策も含めた全体像を「流域治水プロジェクト」として取りまとめ、公開しています。

※「流域治水プロジェクト」とは、河川流域ごとに、河川管理者、下水道管理者、都道府県、区市町村等からなる協議会を設置し、流域全体で緊急的に実施すべき治水対策の全体像を取りまとめたもので全国的に取り組まれています。

江戸川流域治水協議会 中川・綾瀬川流域治水協議会



- 流域の関係者で「流域治水」の取組を連携・強化するための情報共有や意見交換を協議会で行っています。
- 協議会において、江戸川、中川・綾瀬川の流域毎に、早急に対応すべき対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として令和2年3月に公表しました。
- 対策の進捗状況についてプロジェクトのフォローアップや課題や調整などを行っています。
- また、あらゆる主体で流域治水を進めていくための広報展開についても協議会で検討し、実施しています。

江戸川、中川・綾瀬川流域の「流域治水プロジェクト」



江戸川、中川・綾瀬川流域の「流域治水プロジェクト」は江戸川河川事務所HPに掲載していますのでご覧ください。

「緊急流域治水プロジェクト」（越谷市の例）

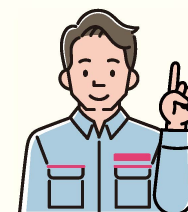


中川・綾瀬川では令和5年台風第2号による埼玉県東南部を中心とした浸水被害を踏まえ、市町が実施する対策と県、国の連携により見える化した「緊急流域治水プロジェクト」を取りまとめました。

詳しくはこちら

国土交通省 水管理・国土保全局
「流域治水プロジェクト」について
https://www.mlit.go.jp/river/kasen/ryuiki_pro/index.html

国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所
「中川・綾瀬川緊急流域治水プロジェクト」について
<https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa01106.html>

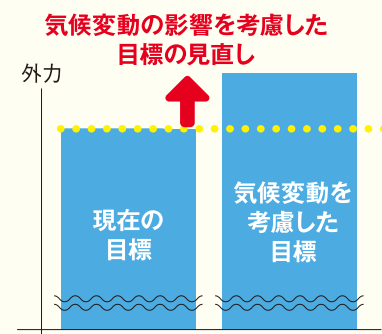


引き続きしっかり取り組む 流域治水【河川・下水道管理者編】

日ごろから国や自治体は河川や下水道の管理を行っています。(河川管理者・下水道管理者)
河川や下水道の管理者による治水対策は引き続きしっかり実施します。

河川管理者が実施している対策

■河川整備計画等について、目標の見直し、整備を加速化



気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し、これまで河川管理者が行ってきた治水対策は引き続きしっかり実施します。

※世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ(パリ協定が目標としているもの)の場合で降雨量変化倍率は約1.1倍と試算

■堤防の整備および河道掘削の実施

堤防整備・河道掘削等の洪水氾濫対策を加速化します。

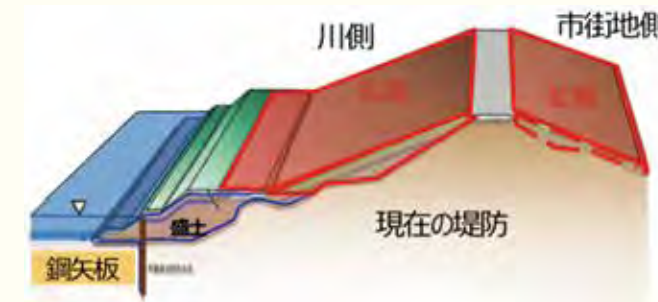
●河道掘削 流下能力が不足する箇所の河道掘削



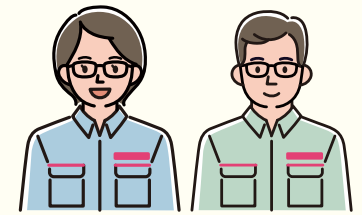
●堤防整備 堤防高や堤防幅が不足する箇所の堤防整備



●堤防拡幅の整備イメージ



普段みなさんが歩いている道路の下にも、大雨から地域を守るための対策が実施されています。浸水被害軽減のためには、河川の整備だけでなく下水道の整備等もあわせて実施することがとても重要なんです。



下水道管理者が実施している対策

■排水施設整備(管渠、排水機場、雨水貯留管等)の整備

内水被害の多い地域や都市化による浸水被害が多い地域などに内水氾濫対策を実施していきます。

●管渠整備

管渠断面をより大きいものに変更し、排水能力を強化(鎌ヶ谷市)



※管渠とは、地中に埋められた水路のことです

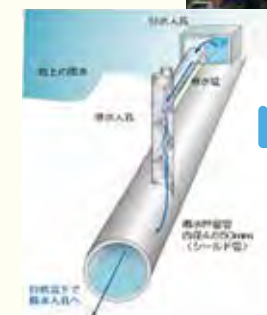
●ポンプ場の整備

雨水幹線整備を進めるとともに 新たな雨水ポンプ場を建設(市川市)



●雨水貯留管整備

流出を抑制する雨水貯留管を整備(川口市)



整備することで浸水被害を防止

■ 雨水貯留管
イメージ

支援制度で広がる流域治水【自治体編】

頻発する浸水被害(主に内水被害)に対応するためにも、自治体のみなさんの取組が重要です。ここではさまざまな取組事例を紹介するとともに、支援事業や制度について紹介します。

自治体のみなさんも「流域治水」の主役です！

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

●調整池の整備

河川への流出抑制、市街地等の浸水防止など、氾濫や内水による浸水被害の軽減に向けて、施設整備や流出抑制対策のルール化を実施



開発調整池(松伏調整池)

●雨水貯留浸透施設の整備(下水道)

河川改修や下水道整備によって雨水を排除することに加え、雨水を貯留・浸透させる取組



下水道(雨水)による貯留管の施設整備のイメージ(浦安市)

排水施設の整備(鎌ヶ谷市)

●雨水貯留に関する補助制度(参考として一部紹介)

さいたま市:浸水住宅改良資金融資
上尾市:雨水貯留タンク設置補助制度
幸手市:雨水貯留槽設置費等助成金交付制度
松伏町:浄化槽の薄い貯留施設転用助成金交付制度
松戸市:浸透施設または小型貯留施設設置補助金
市川市:浸透施設または小型貯留施設設置補助金

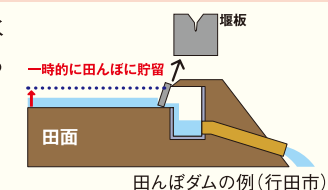
●貯留機能保全区域の指定

一時的に洪水・雨水を貯めることで浸水拡大を抑制する効用がある区域を、貯留機能保全区域として指定することで、事前届出が義務付けされるなど、貯留機能を阻害する行為を抑制



●田んぼダムの整備

「田んぼダム」とは、水田の貯水機能を強化して、豪雨による洪水被害を軽減する仕組み

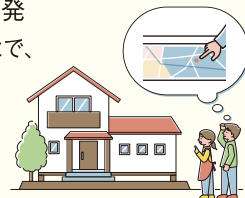


田んぼダムの例(行田市)

被害対象を減少させるための対策

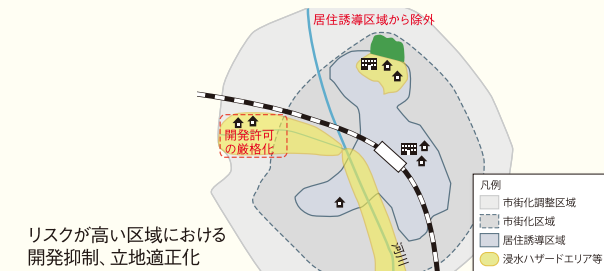
●浸水被害防止区域の指定

洪水時に建物の損壊・浸水により、危険が生じるおそれのある区域を、建物の開発などを制限すべき区域として指定することで、危険な区域に入る住民、建物を制限
水災害の危険性の高い地域の
①居住を避ける
②居住する場合にも命を守る
③移転を促す



●居住誘導区域、防災指針の検討

適切な防災まちづくりを推進するため、災害ハザードも考慮した居住誘導区域を立地適正化計画で設定

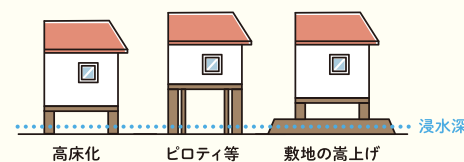


リスクが高い区域における開発抑制、立地適正化

千葉市:千葉市がけ地近接等危険住宅移転助成
→危険住宅を売却し、安全な場所に移転する際の費用の一部を助成

●住宅等の防災改修(嵩上げ、ピロティ化等)

危険が生じるおそれのある区域における住宅・建物の構造規制を行い、構造制限に適合させる改修費用の支援を実施



●浸水対策(耐水化・止水壁等)

都市機能・経済活動が機能不全に陥るリスクを減らすため、止水板や耐水化などの浸水対策を実施



浸水防止壁の設置(市川市)

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

●迅速・円滑な避難のための情報発信

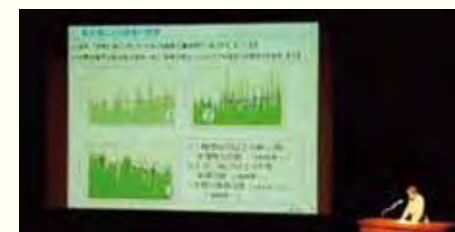
メディア、SNS等により災害情報を発信し、住民が災害時に自ら情報収集し、主体的に避難行動をとれるように支援



水防災情報の発信強化(東京都)

●要配慮者利用施設の避難確保計画・訓練

社会福祉施設や学校、医療機関などの要配慮者利用施設は、利用者の迅速・円滑な避難のために、避難確保計画の作成と避難訓練を実施



避難確保計画作成講習会の実施(野田市)

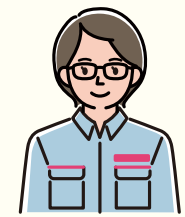
●水害リスク情報の充実

浸水想定区域図及びハザードマップの作成・公表の対象を全ての一級・二級河川や下水道、海岸に拡大し、リスク情報を提供



内水ハザードマップ(松戸市)

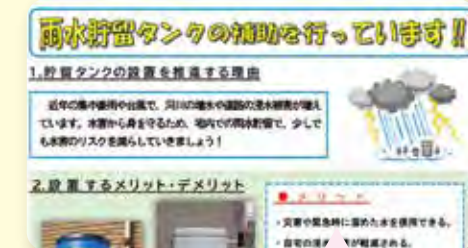
国でも建物の耐水化等のハード対策に対する補助金の交付や、適切な避難行動につなげるソフト対策に向けた支援を行っています。



自治体職員のみならず、住民や企業のみなさんへのサポートをお願いします！

江戸川、中川・綾瀬川流域の流域治水対策の取組を進めるうえで、住民や企業のみなさんがより流域治水対策に取り組みやすくなるよう支援制度の拡充、広報の充実など、関係行政が一体となったサポートにご協力をお願いします。

●支援制度でサポート頂いている事例



事例) 雨水貯留浸透施設の設置費用の補助(上尾市)

市独自の制度として、雨水貯留浸透施設の設置費用の補助の取組を実施しています。

●情報提供でサポート頂いている事例



事例) 公式YouTubeチャンネル(蓮田市)

市HPや公式YouTube等でマイ・タイムラインの周知・啓発を市民のみなさん向けに実施しています。

対策ごとに支援制度がまとめられている資料、サイトがあります！詳しくは、17、18ページ『もっと詳しく知りたいときは…』へ！

みんなで取り組む 流域治水【住民・企業編】

住民、企業のみなさんが始められる流域治水対策を紹介します。
みなさんのちょっとした取組がこのまちを水害から守ることに繋がります。

住民のみなさんも「流域治水」の主役です

1 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

●排水溝の清掃

大雨のときに、雨水を下水道などに排水させる機能を確保することができます。

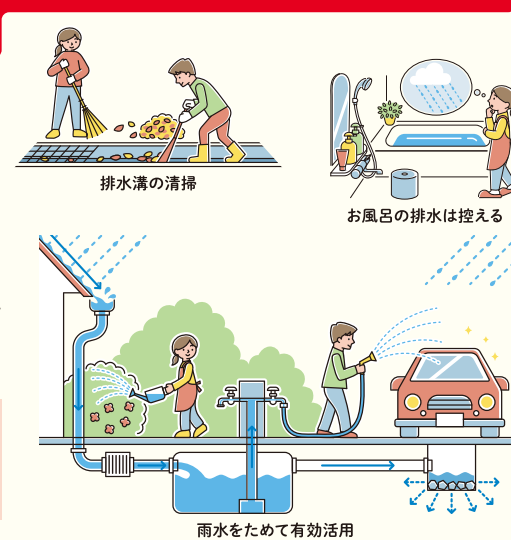
●お風呂や洗濯の水を流さずためておく

特に大雨のときは、川や下水道を流れる水を減らすことができます。

●雨水をためて有効活用する

川や下水道を流れる水を減らすことができます。降った雨を住宅やマンション、会社などに「雨水タンク」を設置してためる場合、補助金の対象となる場合があります。

◆民間企業のみなさんに対する支援制度もあります。
例えば、雨水貯留浸透施設を民間事業者等が整備する際に、条件によって経費の一部を国が直接支援します。



2 被害対象を減少させるための対策

●強い構造にする土のうや水のうによる止水

家庭にあるプランターとレジャーシートによる止水や、水のうと板による簡易止水板などを使用しても家屋への浸水を防ぐことができます。

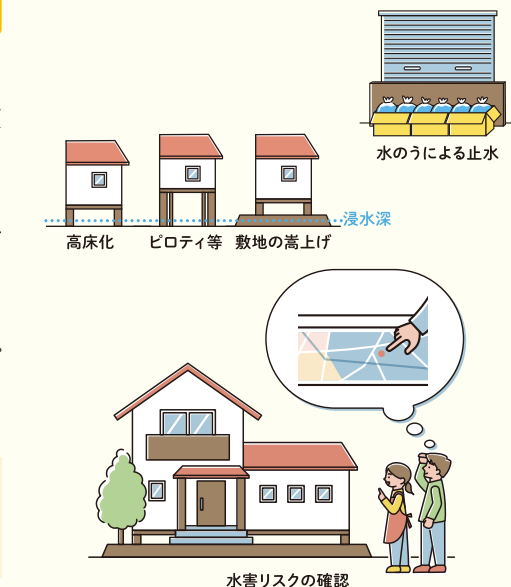
●宅地・建物を浸水に強い構造にする

あらかじめ建物や施設を排水に強い構造にしておくことで、家屋等への浸水を防ぐことができます。この場合、補助金の対象となる場合があります。

●危険な場所に住まない選択

住宅の場所を選ぶ際に、ハザードマップや多段階の浸水想定図、リスクマップ（浸水頻度図）などを確認し、浸水リスクの高い場所に住まない選択も流域治水のひとつです。

◆旧耐震基準のマンションを管理している方に対する支援制度もあります。 事例)「命を守るためのピロティ階等緊急対策事業」(東京都)



3 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

●水害時に危険な場所や避難場所・避難ルートの確認

自治体から配布されているハザードマップで水害時に危険な場所や避難場所・避難ルートの確認を行い、事前にとるべき行動(▶マイ・タイムラインもご参照ください)を確認しておくことで、いざというときに慌てず迅速にご自身やご家族の安全を確保できます。

国土交通省：ハザードマップポータルサイト

水害だけではなく土砂災害など様々なリスクを重ねて、一括で確認することができる「重ねるハザードマップ」「わがまちハザードマップ」



<https://disaportal.gsi.go.jp/>



普段行っていることが流域治水対策に繋がっていることも！
「これならできそうかな」ということから、一緒に始めてみましょう！



突然の災害に慌てないよう事前準備も重要です

マイ・タイムライン ～自分のとる行動を想定しておこう～

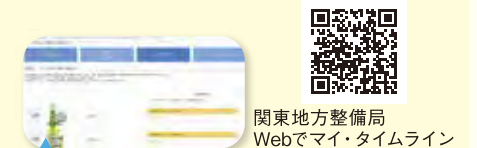
●マイ・タイムラインとは？ 災害が発生したときに、私たちがいつ、なにをすべきなのかを時系列で整理した、**住民のみなさん一人ひとりのタイムライン(防災行動計画)**のことです。
作成することで、自ら考え命を守る避難行動の一助となります。

①洪水時の基本的な行動を考える ▶ ②自分や家庭の状況をチェックする ▶ ③実際にマイ・タイムラインを作ってみる

- 今後の台風を調べ始める
- 避難するときに持っていくものを準備する
- 住んでいるところと上流の雨量を調べ始める
- 川の水位を調べ始める
- 避難しやすい服装に着替える
- 安全なところに移動を始める
- 避難完了

- 車
- ペット
- 持病薬
- 避難に支援が必要な人
- 親戚など避難を受け入れてくれる場所

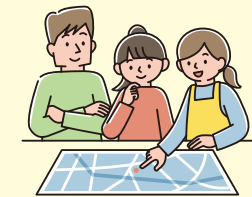
- 基本的な行動を理解して、家庭の状況チェックをし、基本的な行動以外の自分に必要な行動が分かったら、「マイ・タイムライン」を作ってみましょう。



関東地方整備局
Webでマイ・タイムライン

様々なサイトでマイ・タイムラインの作成方法を確認することができます。

<https://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/mytimeline/>



実際に自分なら何をするか考えてみよう！

いざという時に備えて、自分だけの避難計画(マイ・タイムライン)を作ってみましょう！

BCPと事業継続力強化計画 ～企業における事業継続力強化の重要性～

●BCPとは？ BCPとは「事業継続計画(Business Continuity Planning)」のことで、災害など緊急事態が発生したとしても業務が継続できるよう事前に緊急時の対応を決めておく計画のことをいいます。

→ 緊急時の事業継続や早期復旧を図り、平常時から事前に計画・準備しておくことが企業価値の維持・向上につながります！

●どうやって作るの？何から着手すればいいの？ まずは自社の災害被害を想定し、以下の項目を検討、整理します。

- (1) 災害後に活用できる資源に制限があると認識し、継続すべき重要業務を絞り込む
- (2) 重要業務のそれぞれについて目標復旧時間を設定する
- (3) 重要業務の継続に不可欠で、再調達や復旧に時間や手間がかかり、復旧の制約となりがねない重要な要素・資源(ボトルネック)を洗い出し、それらに重点的に対処する

→ 【内閣府】防災情報のページ みんなで減災「事業継続」 <https://www.bousai.go.jp/kyoiku/kigyuu/keizoku/index.html>



●BCP作成のハードルが高い時は？ まず『事業継続力強化計画』(いわゆるジギョケイ)から作成する方法があります。事業継続力強化計画は策定した計画を**国が認定する制度**で認定されると税制優遇や金融支援などの支援が受けられます。

事業継続力強化計画の策定に対して無料支援や補助制度もありますので是非、ご活用を検討下さい

サイトから
無料支援の申し込み

▶ 専門家の
マンツーマン支援により、
計画書を作成

▶ 【独立行政法人中小企業基盤整備機構】
事業継続力強化支援事業
https://www.smrj.go.jp/sme/risk_disaster/enhancement/index.html

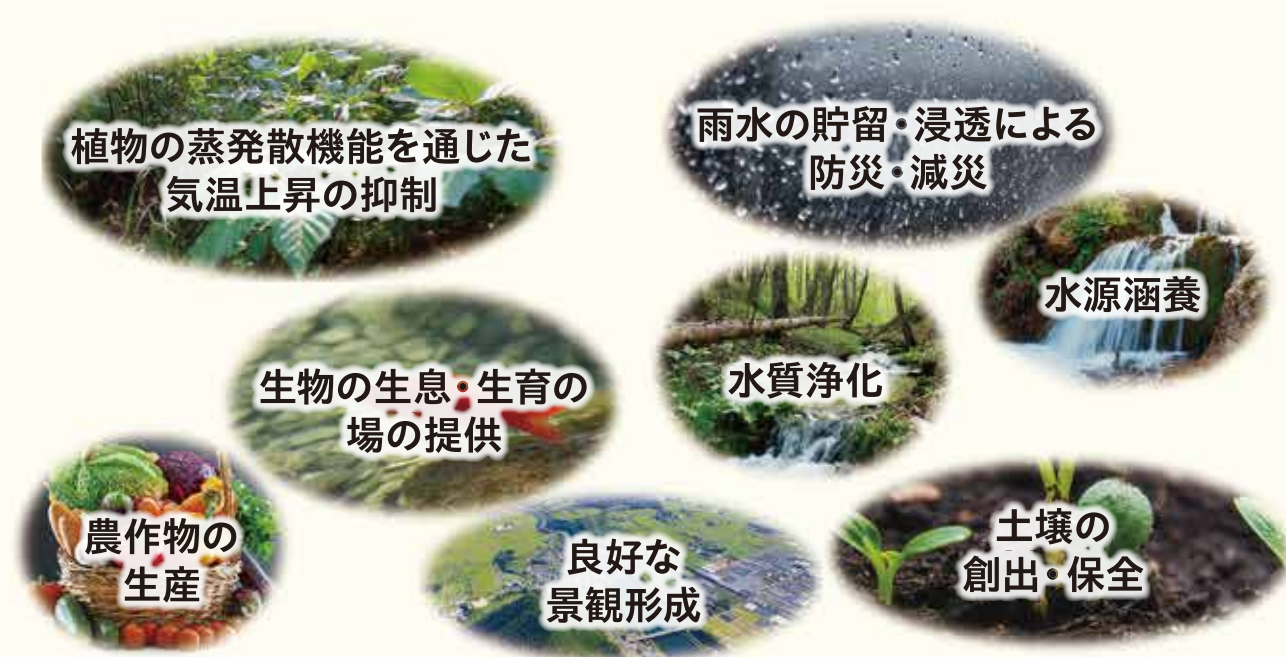


流域治水×グリーンインフラ

流域全体で水害を軽減させる「流域治水」は、流域の自然環境が持つ治水機能を活かしつつ進めていくことも重要です。多様な生き物を含む自然環境の改善や地域振興にもつながります。

グリーンインフラって何？

- **自然環境がもつ様々な機能を活用して問題を解決しようとする考え方**です。
ここでいうグリーンは緑、植物という意味だけではなく「環境に配慮する」「環境負荷を低減する」といった意味を含み自然環境と共有したインフラ整備を進めることを目指す考えです。
- インフラというと、道路やダムなどハード施設のイメージが強いですが、地域社会の活動を支えているようなソフトの取組も含まれます。



身近にあるグリーンインフラの取り組み

自然環境の保全・復元など自然再生

大柏川第一調節池は必要な貯水容量の確保・洪水時の浸水被害の軽減を目的とした施設です。
さらに、動植物の観察や野鳥の生息場所として整備することで、水辺の自然環境を生かした施設として生態系保護に向けた取組も実施しています。



市川市 大柏川第一調節池

自然環境が有する多様な機能活用の取組

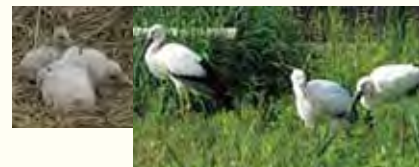
「中川やしおフラワーパーク」では、河川敷の不法投棄防止と市民の憩いの場として観光客を呼び集めることを目的として整備されました。隣接した「中川やしお水辺の楽校」では、おさかな観察等のイベントやカヌー体験を通して、子どもの自然体験の場として市民団体や市内小中学校に活用されています。



左：中川右岸23.0km付近 中川やしお水辺の楽校／
右：水中歩行路（訓練風景）

利根運河周辺エリアとコウノトリ

利根運河周辺エリアに位置する野田市では、コウノトリの野生復帰（飼育・繁殖・試験放鳥）を通じた、自然と共生する地域づくりに取り組んでいます。

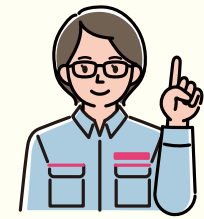


左：野田市「こうのとりの里」で孵化した個体／右：2015（平成27）年には放鳥された3羽写真は飼育施設内



野田市 コウノトリ放鳥式典
2015（平成27）年7月23日

市街化が進む首都圏において、いかに農地等の保全と開発のバランスをとりつつ、貯留機能の保全・向上やグリーンインフラとしての活用を行い、安全なまちづくりを推進していくかが非常に重要になってきます。



河川を基軸とした生態系ネットワークの形成



利根川と江戸川を結ぶ利根運河では
地域振興イベントも開催されています

- 国土交通省は、長年の河川整備の取組を通じて、流域の区市町、NPO、学校などの多様な主体とのつながりを築いてきました。
- このつながりを生かし、川を中心とした事業から、広域の枠組みとなる流域の「**河川を基軸とした生態系ネットワークの形成**」を進めています。
- 流域の農地や緑地などにおける取り組みとも連携し、**自治体の魅力的で活力のある地域づくり**や SDGsの達成を目指しています。

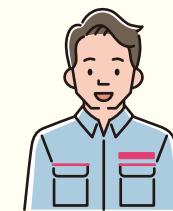
※生物多様性が保たれた国土を実現していくために、保全すべき自然環境や優れた自然条件を有している地域を核として、これらを有機的につないでいく、それが生態系ネットワークです。

治水としても、生態系にとっても重要な農地の保全

- 江戸川、中川・綾瀬川の流域では、農地が雨水を貯めることで、川へ流れ込む水を減らしたり、周辺の浸水拡大を抑えたり、**治水上重要な雨水貯留効果を発揮**しています。



※農林水産省所管の
「多面的機能支払交付金」等が活用出来ます。



グリーンインフラについて詳しくはこちら
「グリーンインフラ実践ガイド」
（令和5年10月・国土交通省総合政策局環境政策課）
https://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000302.html



「SDGs」の17の目標の達成に向けて、国、自治体、企業など様々な主体が取組を進めています。
自然環境が私たちの社会・経済の土台であること、すなわち、多様な生き物を含む自然環境の保全・創出が
地域振興・経済活性化などの社会・経済上の課題につながっていくことを示しています。



対策事例や留意点、支援制度などを確認したいときは



対策ごとに補助制度などを確認したいときは



困ったときは ～流域治水とは？支援制度は？ 対策状況、最新情報は？～



楽しく川のこと、流域治水のことを 学びたいときは



18

江戸川流域治水及び減災対策協議会

中川・綾瀬川流域治水及び減災対策協議会

～流域治水の取組を連携・強化するための情報共有や意見交換を以下の構成員で行っています～



- | | | | | | |
|------------|---------|---------|---------|---------|------|
| 茨城県 | 埼玉県 | 千葉県 | 東京都 | | |
| 五霞町 | さいたま市 | 熊谷市 | 川口市 | 行田市 | 加須市 |
| 春日部市 | 羽生市 | 鴻巣市 | 上尾市 | 草加市 | 越谷市 |
| 桶川市 | 久喜市 | 北本市 | 八潮市 | 三郷市 | 蓮田市 |
| 幸手市 | 吉川市 | 白岡市 | 伊奈町 | 宮代町 | 杉戸町 |
| 松伏町 | 市川市 | 船橋市 | 松戸市 | 野田市 | 柏市 |
| 流山市 | 鎌ヶ谷市 | 浦安市 | 足立区 | 葛飾区 | 江戸川区 |
| 東日本旅客鉄道(株) | | 東武鉄道(株) | | 秩父鉄道(株) | |
| 東京管区气象台 | 熊谷地方气象台 | 水戸地方气象台 | 銚子地方气象台 | | |

(独)水資源機構

農林水産省 関東農政局

環境省 関東地方環境事務所

江戸川河川事務所



江戸川流域治水及び減災対策協議会
中川・綾瀬川流域治水及び減災対策協議会

<https://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa00915.html>

